

令和 4 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立有田中央高等学校清水分校 校長名：戸川 しをり

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）
【目指す学校像】 ・地域の教育資源を最大限に活用した、分校ならではの特色ある学校。
【育てたい生徒像】 ・学んだことや体験したことを活かして、自ら考え、行動ができる。 ・基礎学力・コミュニケーション能力を身につけ、自己肯定感を高め、自分に自信が持てる。 ・地域の産業や自然環境・社会環境についての理解を深め、社会から信頼され社会に貢献できる。 ・他者と協働して課題解決に取り組み、生涯をととして学び続ける姿勢を身につける。 ・自己と他者を尊重し、様々な在り方を認めることができる。

学校評価の公表方法
年度末に、生徒・保護者等の学校評価結果を関係者に知らせるとともに、学校のホームページに掲載する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。	(80%以上)
	B	概ね達成している。	(60%以上)
	C	あまり十分でない。	(40%以上)
	D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組				評価（3月31日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	生徒の実態に即したわかる授業を実践し、個々の学力を確かなものにする。	B	ICTの活用を推進するなど、授業改善に取り組む。	すべての教員がICTを活用した授業を取り入れているか。	B	パワーポイント等を授業で活用する教員が増えた。Teamsの校内研修も2回実施した。	ICTの活用については、今後も校内研修を実施する。家庭学習や基礎学力の定着には、生徒の興味関心を喚起する教材作り等、粘り強く取り組む必要がある。
			放課後の取組を含む「学び直し」を充実させる。	学び直し、漢字学習及び小テストを実施しているか。	B	学び直し、漢字学習に取り組み、一定の効果があつた。	
			家庭学習の定着につながる取組を充実させる。	生徒が主体的に学習できる教材の作成にとりくんでいるか。	C	宿題等の提出がままならず、効果があつたとは言いがたい。	
2	基本的生活習慣の確立及び教育相談の充実。	B	挨拶の励行、みだしなみ指導の徹底等、規範意識を向上させる。	校門指導、授業中のマナー指導を徹底しているか。	B	あいさつ、服装について全員で声をかけて取り組んでいる	授業マナーや身だしなみについては生徒に定着している。一方、支援の必要な生徒について、理解を深める現職教育等を行い、支援の充実を図る必要がある。
			生徒の情報について教職員間で共通理解を図る。	生徒の情報交換を常に行い、職員会議では必ず時間をとっているか。	A	日頃から生徒の情報交換を行い、職員会議では毎回情報共有をした。	
			SSWや地域の関係諸機関との連携を充実させる。	必要に応じてケース会議等が開かれているか。	B	支援委員会を定例化し、毎月実施した。SSWや有田川町家庭支援総合センターとの連携もできている。	
3	キャリア教育を充実し進路意識を高めるため、個に応じた指導を徹底する。	B	三者面談等を通じて生徒・保護者との意思疎通を図る。	進路決定について、生徒・保護者の希望が充分反映されたか。	C	三者面談等の機会をもっと設けたほうがよかった。	三者[四者]面談等については、定期的な実施時期に関わらず、必要に応じて担任と連携を取り、企画・実施する。企業説明会や企業見学の機会を通して、生徒の進路意識を喚起していく。
			就職・進学に向け、面接指導や補習を充実させる。	生徒全員の進路希望が叶えられているか。	B	一定の結果が得られたが、計画的指導にさらなる工夫が必要である。	
			インターンシップや職場見学を積極的に実施する。	企業説明会や企業見学が計画的に実施されているか。	B	インターンシップについては、実施できたが、企業説明会や企業見学等の実施が十分でなかった。	
4	学校開放や地元学校との交流に努め、地域に根ざした学校づくりを推進する。	B	地域の人的・物的資源を教育活動に積極的に取り入れる。	地域産業、福祉施設等と連携した体験的な授業が行われているか。	A	総合的な探究の時間で実施できた。	コロナ禍の間、地域のイベント自体が開催されていなかったこともあり、今年度は日程調整が間に合わず、参加できない地域の行事もあった。今後は、日程調整を行い積極的に参加する。情報発信については、ホームページの内容をさらに充実させる。
			地域住民との交流の機会を設け、高校生としてできる地域貢献を推進する。	地域のイベントへの参加し、合同行事を開催しているか。	B	文化祭と日程が重なり清水ふるさと祭りには不参加であったが、文化祭には地域住民の参加があつた。	
			地域小中学校との連携を進め職員・生徒間の交流を推進する。	学期に1回以上の小中学校訪問や職員・生徒間の交流ができているか。	B	中学校との合同運動会を実施した。小学校との田植え稲刈りは、日程が合わず不参加であった。	
			情報発信の方法・内容を充実させる。	マンスリータイムズを地域で閲覧しているか。ホームページの内容を充実させているか。	B	マンスリータイムズに生徒の感想を多数掲載した。クラブ活動の様子をホームページに掲載した。	

学校関係者評価（12月1日実施）
在校生・保護者を対象に、具体的な項目を挙げたアンケート形式の学校評価を実施した。その結果、概ね良好な評価を得た。 中学校との交流、地域学習、ボランティア活動などの地域との連携を積極的に続けてきた結果、ある一定の評価を頂くことができた。また、学校運営協議会からは「地域の中で、様々な体験ができているのが良い。」との評価もあった。 少人数を活かした取組については、保護者から「生徒にあった授業をしてもらえて、うれしいです。」との声があつた。 今後、地域の小学校・中学校の児童生徒数がさらに減少するので、地元の町内だけでなく、他の郡市に分校をアピールし、入学者数を増やしていく取組が必要である。